

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共にご紹介していきます。

知財シンポジウム

国際的特許スキームの進化に向けて

政策ビジョン研究センターでは、2009年11月12日、日本知財学会及び京都大学と連携して、「アジア知財学会議」を主催致しました。

アジアワイドで学会や大学が組織的に協力し、知的財産システムに関する政策提言を行おうとするこのような試みは、初めてのものです。日中韓の学会等の6つの学術団体、10の大学の知財専門家が参加しました。また、アメリカからアメリカ特許商標庁のデュダス前長官ほかの有識者の方々にも参加いただきました。

この会議において、イノベーション活動や特許行政において、大学が保有する知的財産の重要性が高まっており、また、学術研究活動においても、知的財産権制度や運用が広く影響を与えるようになってきているとの共通認識の下、インテンシブな議論を行い、**7つの提言**（「日米欧三極知財シンポジウムへのアカデミアからの提言」）を取り纏めました。

また、この提言は、同日午後開催された「日米欧三極知財シンポジウム（日米欧の特許庁長官が参加）」において、会議代表の渡部俊也教授（東京大学政策ビジョン研究センターイノベーションと知財研究ユニット責任者、先端科学技術研究センター教授）他から、早速、メッセージとして発信されました。会議の参加者より、学術と産業技術の接近等を踏まえ、知財制度のユーザーとしての大学から提言は、大変有用であり、また、研究機関としての大学には、グレースピリオドがイノベーション活動に与える影響等についての制度検討の前提となる学術的研究を期待したい等との発言がありました。

今回のような学術団体が国際的に集まり、制度当局との対話を行うという枠組み自体、新しいものでありますが、この動きは、東京大学・京都大学による「未来を創造する特許制度のための15の提言（2009年6月）」を受けたものです。今後、「世界知財学会議（仮称）」を設け、継続的に意見の交換と提言の発信を行っていく予定であり、政策ビジョン研究センターは、その中心として活動していきます。



アジア知財学会議

日時：2009年11月12日(木)午前
 場所：京都大学 芝蘭会館 山内ホール(非公開)
 主催：日本知財学会、東京大学(政策ビジョン研究センター等)、京都大学
 Unit：知的財産権とイノベーション研究ユニット

日米欧三極知財シンポジウム

日時：2009年11月12日(木)午後
 場所：京都大学 芝蘭会館 稲盛ホール(200名収容)
 主催：特許庁
 協力：東京大学ほか

「日米欧三極知財シンポジウムへのアカデミアからの7つの提言」

今日のイノベーションにおいては、グローバル化、オープン化が急速に進展しており、その波は止めることが出来ない。また、製品毎に関与する権利数の増大と知財の集積的利用、権利主体と知財流通の多様化等といった大きな質的变化も生じている。

さらに、グリーンイノベーションや医療等の領域で、学術と産業技術の接近が顕著となり、知財制度のユーザーとしての大学・研究機関の存在感が高まっている。大学側から制度をみると、知財制度が大学の研究活動に影響を与えていると広く認識されている。

このような変化を踏まえ、プロイノベーション、グローバル化対応、オープンイノベーション推進の3つの視点から、7つの知財システム改革を提言する。

1. 日米欧韓中の5カ国主導による特許制度等のハーモナイゼーション
2. 日米欧でのグレースピリオドの調和
3. 非特許文献の共通データベース及びサーチシステムの早期構築
4. 非実施機関としての大学の特性を踏まえた制度的検討の推進
5. 国際的な産学共同研究のあり方に関する国際的な議論の「場」の設置
6. 知財人材育成に関する国際協力・交流の展開
7. アカデミア・大学の意見を知財制度に反映させる仕組みの継続的整備—「世界知的財産学術会議」の創設



写真：1,3 アジア知財学術カンファレンス / 2 日米欧三極知財シンポジウム

政策関連用語集

政策ビジョン研究センターでは、各研究ユニットの最先端の研究内容をよりご理解頂けるよう、政策関連用語集を作成し、ホームページに掲載しました。今後順次用語数を増やしていく予定です。ご活用ください。

日仏合作グライダー100年記念講演会 航空政策研究ユニット

12月9日(水)、安田講堂にて、日仏合作グライダー100年記念講演会式典が開催されました。当日の様子は次号にて、ご報告します。